

第五編 震災直後に於ける本市復興の諸相

第一章 概 説

本市の災害とそれに伴ふ救援救護の概況とは、如上に依つてその一斑は知ることを得ると思ふ。

更に振返つて見れば、災害直後数日の間は、一望實に全滅の感を抱かしめ之が爲めに横濱再興も如何かと疑がはるる程であつた。そののみならず、かかる混亂時に乘じて、吾生命とする貿易港の移轉浮説は、幾度となく市民を劫かしたのであつた。一方に於て本市救援の爲めに真情の流露ありしに反し、他面にはかかる惡辣奸欺に世を惑はす徒輩も出て、不合理の浮説とは云へ、來るべき大横濱市建設の上に多少なりとも妨となるが如き事ありてはとの懸念から、是等の浮説を根底から覆さんとし、一方今後に於ける政府其他の救護方懇囑の爲めに、或は東京方面の災害及救護法を視察の爲めに、市長、議長其他の本市有力者は、餘燼餘震の中を突破して、數度東上奔走したその効果もあり、九日には首相の意を齎らして、後藤内務大臣、財部海軍大臣は、本市災害視察の爲めに來

濱し、假事務所に立寄られ、當日内閣總理大臣よりは、特に救恤金一封を下げ渡され、一場の告諭をなした。その要旨を叙すれば、「今次の震災は、實に横濱市のために同情に堪へない。總理大臣自ら見舞ふ筈であつたが、内閣を組織して、日未だ淺く、諸事多端の折柄として、小官は總理大臣の命令を奉じて、財部海軍大臣と共に訪問した次第である。幸に海軍の力、陸軍の兵は震災當初より之を増加し、危急の状況より之を救出し、一方物資の供給と相俟つて、今や蘇生の思ひあらしむるを得たのである。而して物資の供給があつても、其分配の方法に於て全からざるものがあるとしたならば、當局の責は實に免れない。今各罹災地の状況を觀るに、地方自治體の本質として、紳士税として、地方の紳士が家族離散し、妻女死亡して居るにも拘らず、進んで救済の事業に努力せられつつあることは、内務大臣として深甚の謝意を表すものである。官民協力、茲に此危急を排除し、之を以て大幸福の招來に轉機する事も得べく、又勇往邁進、之をなさざれば大和民族の本領であると言ふを得ない。今日此際、官民一致、流言浮説等もあらば、その基因を究めて、之に動かさるることなく、益、如上の趣旨を體として奮勵邁進せられんことを切望する」。此告諭に對して、渡邊市長は次の挨拶を爲した。

只今茲に來臨せられ、大臣の訓示を忝ふし、深謝に堪へません。御訓示は正に横濱市民の意中

震災直後に於ける本市復興の諸相(概説)

と符節を合する所であり、轉機幸運の途に挽回し、努力することを期して居ります。幸に各員各位の絶大なる御援助に俟ちて、始めて現出し得べき事が甚だ多いのであるから、何卒充分の御視察を遂げられ、本市の發達回復の爲めに、多大の御援助を切望するに堪へません。

かく兩宰相の災害視察を劈頭に、直後續々政府員に依りて、本市の災害程度は、豫想以外に凄慘を極めたるを會得され、是に於て政府も深厚なる同情を以て、取敢へず交通機關の應急施設に因りて、一部の鐵道開通を見るに至り、その後重ねて政府に對し、諸般の救援を仰ぐべく、諸陳情の次第を協議すると共に、災害復舊に對する市會の根本的覺悟と、其の決心とを決定する爲めに、忘れもせぬ九月十一日午前十一時、假市役所屋上(現中央職業紹介所屋上)に於て、災後第一回の緊急市會を開催したのである。平沼議長を初め三十三名の議員出席(寫眞第一回緊急市會參照)、議長は

今回の震災は稀有の災害である。幸ひ議員諸氏と健全に相會することを得たのは、同慶に堪へません。而して議員中和田氏のみは、不幸にして死亡の旨報告があり、其他四五名の行衛不明の氏あること、悲痛に堪へぬ。

と宣し、續いで渡邊市長登壇、

前古未曾有の大震災の結果、吾が横濱市は殆ど全滅したのである。爲めに或は貿易を東京に引

移すべしとか、生絲貿易を神戸に移すべしとか、宛ら我が横濱市が消滅するが如き感を抱かしむる浮説が起つたのである。然れども我市民は、斯かる殘骸に屈せず、舊に倍したる大横濱市を建設する覺悟と決心とを有するものである。故にこの覺悟決心を市會に於て發表し、これを内外に宣明することが、焦眉の急務と信するのであるに依り、今日市會の招集を煩はした所以である。冀くは充分の審議有り度し。

と挨拶すれば、上保議員は立つて、目下の場合、火災保險金支拂は、最も緊切なる關係を有するものである。世上に保險會社は、不拂を重役會議に於て決議したるやの説をなすものがある。吾人甚だ不安に堪へざる所である。たとへ法律上當然の請求權なしとするも、彼の桑港の如きは、先年全額を支拂した前例があると述ぶるや、市長は之に對して、本件に關しては、種々聞き及んだ事があり、又自分としての意見もあるが、夫は後に致し、先づ根本的覺悟、決心に就て、本會の態度を一定し度いと答へ、其の他高木、村田兩議員よりも、各意見を具申し、赤尾議員は、市長の意見を具體的決議案として提出されたしとの動議に對し、滿場一致の賛成があつた。而して議長は五分間の休憩を宣し、再開して、議長は、市理事者より別稿の決議案提出ありたしと報告して、書記に朗讀せしめた。

決 議

震災直後に於ける本市復興の諸相(概説)

本市罹災前後に關する應急施設に係るすべての行爲は、之を市長の自由裁量に一任す。

大正十二年九月十一日

満場一致可決。續いて戸井議員は、蠶絲貿易の復活に就き、山崎議員は、縣市の協調に付き、村田伊東赤尾議員等より銀行預金、保険金の支拂、竝に具體的議案の提出方に就き、夫々意見を述べ、更に市長は、只今の處、今日の災害に就き、政府より五拾萬圓を救済金として交附されたが、差詰め該金を以て應急の施設を講じ居るのであるが、根本的復興に就ては、更に大なる運動を起す必要があると、その旨を熱心に述べ、次で青木助役よりも、水道に關して報告し、西谷刈野間は破損甚しきも、幸ひ工兵の援助を受け、目下復舊も藤棚までは給水に差支なく、爰より神奈川關内方面に給水し居り、目下は各方面に順調に施行しつつある。その他瓦斯電車に關する現状の説明等に依つて、災後第一回の市會は散會し、その後十四日午前十一時には、第二回の市會を開催したが、當時は災後の混亂相踵ぎ、全く悲絶悲壯の光景裡に、左の重要案件八項を議決したのである。

決 議

- 一 帝都復興に關する事業中に、横濱市を必ず包含せしめ、復舊の策を講ぜられ度。
- 二 火災保険金支拂に關しては、條規に拘泥せず、政府は支拂資金を供給し、其支拂を執行せしむ

る事。

- 三 銀行預金支拂に關しては、政府の援助により其の拂戻を迅速に實行せしむる事。
- 四 罹災窮民の救助力に就ては、尙一層之を繼續し、且之を徹底せしめられ度事。
- 五 横濱港は速に修築に着手し、貿易の復興を計られ度事。
- 六 蠶絲貿易に關しては、速に取引所を再開せしめ、同時に此際羽二重竝に絹紬を、全國的に統一したる國立検査所を本市に設立せられ度事。
- 七 本市都市計畫事業を、此際國力を以て、遂行せられ度事。
- 八 義務教育機關の復舊は、國力の隆頽に至大の關係を有し、一日も之を忽緒に付すべからざるに依り速にこれが施設を計られ度事。

尙ほ具に議事の經過を述べれば、平沼議長上京不在の爲めに、池田副議長代りて、議長席に着き、正午少憩後開會左の意見書を可決した。即ち

意 見 書

今回の震災害は、有史以來稀有の大悲惨事にして、之が復興は帝國の消長に絶對なる關係を有す。就中帝都の關門にして、貿易の中心地たる本市各般の復舊は、一日も之を忽緒に付すべからざる緊要事なる以て、本市會は左記條項を決議し、政府の援助を仰度、茲に市會の決議を經、意見書

震災直後に於ける本市復興の諸相(概説)

提出候也。

大正十二年九月十四日

横濱市會議長 平 沼 亮 三

次で同日歸濱せる渡邊市長より、一場の挨拶あり、市會は、三大臣の來濱を機會に、面接して陳情すべしとの意見もあつたが、そは視察行程の障碍となるを慮り、十六日一同上京し各省大臣を歴訪して、決議の趣旨を具陳することに決して、午後散會した。一方市長は、寢食を忘れて大奔走し、翌十五日午前五時、平沼市會議長、井坂商業會議所會頭、原貿易復興會々頭等、三氏と共に、出京し、山本首相並に各省大臣を歴訪し、本市災害復舊對策に關する陳情と、並に其後の經過を報告して、更に市の復興救濟方に關して、重ねて具陳した。殊に今回御煥發の詔勅中、

帝都の復興を圖る各種施設中、同時に横濱を含むものなりや否や。

に付ては、文理解釋上、多少の疑義もあるが、事實重大に屬し、濫りに論議すべきではない。而も急速なる理解を要するのであるから、市長は多數の關係有志を糾合するの暇もなかつたので、匆惶上京した次第であるが、登閣の上、幸ひ首相並に各省大臣に會見し、各項に就き、誠意を披瀝したのである。即ち帝都復興の緊切なると共に、宛かも其の關門を

なす横濱の復興は、絶對的不可分のものとして、同時に復興を計られたし。横濱は貿易を中樞として、存立するものなるが故に、港灣如何が、即ち本市の起伏に關す。最近視察を遂げられたる原田技監の云ふ處に依れば、港の回復は、決して困難ではない。即ち本港岸壁は地盤堅牢にして、唯上部の破壊に止まり、棧橋も應急工事を以て足るが故に、速に港の利用をなし得べしとの事である。本市貿易の中心生命は生絲である。而して此貿易の張弛は、直に帝國の興廢に關するを以て、鐵道輸送に、或は内外の通信に、金融に、總て政府の援助を得るに非ざれば、到底復興を期し難き状態にありとの具陳に對し、關係大臣何れも多大の同情を表せられしのみならず、特に内務大臣よりは、

帝都復興は横濱市を包含す

なる旨を宣明せられ、この旨市長より宜しく市民に傳達されたいと附言された。此に於て始めて市長及一行は、充分なる援助の言明を得たので、本市復興の基礎確立の曙光を見たのである。人心極度の不安に驅られたるを以て、八日市長は、宛かも無警察の状態にあるを救濟せんため、各大臣を歴訪して、陸海軍の増援派遣を乞ひ、食糧品を始め、淨水供給、交通の整理復舊、電燈の復舊等に就き、夫々救助を求め、直に承認を得、それより曩に震後二日の混亂裡の時も、本市都市計畫局長坂田貞明氏を喪ひ、復活途上に大なる

震災直後に於ける本市復興の諸相(概説)

支障を來したので、市長は十一日直に上京、内務大臣を訪ひ、坂田氏の後任として當代第一流の人物、幹旋方を依頼したるに、大臣快諾、直に内務省より適當なる人物を派遣し、計畫上遺憾なきを期すべしとの望み多き回答を得、尙ほ東京市及内務省に於ける對港灣計畫の態度、竝に夫等の狀況を尋究して歸濱した。更に十六日には、前記市會の決議八項を携げて、本市青木助役は、市會議員一行と共に上京し、總理大臣官邸に於て、後藤内相と會見して具陳し、其會見内容の要旨は、

既に是等の諸件に就て總理大臣とも大體打合せ済みであるから、自分は本日内相兼總理大臣の資格で應答すると、冒頭に頼り多き言を以て、帝都復興に横濱市を包含せしめられんことの希望に對しては、本大臣も左様具陳の通りの希望を有し、首相亦同感である。閣議未だ決定せざるも、帝都復興に關する官制中、

帝都其の他

とあるは、是れ要するに横濱市を含むものであるから、左様解釋ありたい。

第二項に就ては、法規に膠着せず、此際火災保險金を支拂ふ様資金の供給ありたしとの希望に對しては、之れ横濱市單獨の問題に非ずして、震災地全般の大問題であるから、政府も右支拂の保障を與ふるに非ざれば、罹災地の復興に支障を生ずる事あるべきを慮り居る次第である。首相

とも即刻協議を遂ぐる事とすべく、唯今は具體案なきも、何等かの方法に依り、現金支拂の途を講ぜねばならぬと考へるのである。近く解決の方法も立たば、同一方法で、一般的に解決を見るに至るであらう。

更に第三項、政府の援助により、銀行預金拂戻を迅速に講ぜしむるの件に關しては、是れ亦一日を急とすべき緊要事と思ふのである。従つて政府も萬全の方法を樹つべく考慮中である。

該問題も前項同様、一般的の重要問題であるので、其の具體案を急いである。

次に第四項、罹災民の救助方は、尙ほ之を繼續して徹底せしめられたき希望に對して、内相は反問的に、

然らば既往に於て、救助不徹底と云ふ意味にも解し得べきであるか。

との質問があつたが、一行は

既往に於て不徹底なりと謂ふに非ず。或大官が救助は本月を以て打切るべし。

と言明せられたので、政府の意思果して然りとせば、現在罹災民の實狀に添はざるものにして、山々敷大事發生の恐れなきを保せぬのである。即ち今月を經過するも、罹災地には何等の事業起らず、就職口を求むる失業者の群徒に多くして、收入の途容易に得難く、一面生活の物資亦缺乏して、人心の動搖を來すべき事明かなるに拘らず、憐民の養成を憂ひ、今月を以て救済を打切るとせば、折角の救助も其の功を一簣に缺くの結果に陥るべしと思惟し、敢て第四項の陳情をなしたる

次第であるとの陳辯に對し、内相大いに之を諒とし、政府は今月を以て救助打切りとするの意志を有せず。されど今後永久の救助に就ては考慮せざるべからずとの言明があつた。

更に第五項横濱港を速に修築し、貿易の復興を計られたき希望には、内相特に左記意味の聲明があつた。

横濱港の修築は當然なすべきの緊要事に屬し、政府又大いに考慮を拂ひし點である。併し港の破損程度が八割乃至九割の、大部分に達したりとせば問題は自ら格別なるも、幸にして約三割の破損範囲に止まりしは、不幸中の幸ひである。即ち残り七割は舊態依然たる事實も明確になつたので、此の損害に對しては國家としても直に修築を加ふべき必要を感じて居る。而して東京築港の計畫に就ては、諸君の憂ふる所なからんも、其の完成は七箇年の長日月と概算五億萬圓の巨費とを要するのであるから、目前に國家危急の大事を見ながら、修築極めて易々たる横濱港を捨て、東京築港に着手するが如き、迂遠の方策は國家として採り得ない政策である事を諒せられたい。

尙東京築港に關する諸説紛々たるも、内相が羽田より運河を開鑿して京濱間の連絡を計らば、之にて充分なりとの事業意見を披瀝されたるは、大いに意を強うするものであると、港灣擁護を

力説し、更に

第六項蠶絲貿易に關する希望に付き、政府竝に當業者は、既に再協議を重ね、取引開始の運びに至りたりと聞く、正に順調に向はんとしつあるを以て、先づ憂慮の要なかるべく、その他第七項は、第一項帝都復興の問題と不可分にて、大體第二項の説明通りにて、第八項義務教育機關の復興に關する希望は無論賛意を表する所であるが、是は公共團體たる市自身の仕事と認むるので、自發的に對應策を進められたい。

との事であつたので、市會の希望は、大體に於て政府の意志と一致して居るので、市民は、此際大に意を強うして、其の堵に安んじ、而して復興都市の建設に、市民と共に奮勵すべきことの意氣に向つた。而して先づ當面に困憊を感じたる給水施設も、山手町及中村町、其の他二三箇所湧水井に應急加工して、附近市民の用に供せる外、港内碇泊中の船舶等より供給を仰ぎ、九月九日より十月二十日に至るまでに、二萬三千五百三十三石及二千五百六十九噸の水量、及び救護品の多くは、全國各府縣の義捐同情に依るもので、其の他醫療に或は夫役に、殆ど至らざるなく、世人の同情は曠漠たる焦土の上に立ち、民空しく方向に迷ふ市民とは打つて變り、軍隊竝に警官の援助に依つて、秩序も回復し、民心稍安定するに至り、漸次市勢の復興に向ひ、着々銘々家業の再興に趣いた。就中復興

史上特筆大書すべきは、本市生絲業者の白熱的な行動で、當市貿易の大宗を維持するの大決心を以て、非常なる努力の結果、震災後僅かに二旬餘震未だ止まず殘煙尙盡きざる九月十七日に於て、早くも災後第一回の生絲を米國に發送した一事は、當時内外諸國を驚歎せしめたことである。更に本市復興會の創立を見るに至り、一層活氣を呈し、官民合同、互に私なく、眞情漲り、大横濱建設の前提に、一大偉力を與へたのである。今其の帝都復興中に、我横濱市を包含するの聖意に感銘し、横濱市復興會を創立した其狀況を叙したい。

時恰もよし帝都復興に關する詔勅煥發あり。帝都復興中に、吾横濱市を包含するの聖意に感銘したる市民は、更に一層の勇氣と愛郷心とを作興し、九月十九日午後一時、櫻木町なる市役所假廳會議室(元中央職業紹介所三階)に於て、當市復興に關する協議會を開いた。當日の來會者は、各方面を網羅して、二百餘名に及び、縣より松原内務部長、森岡警察部長、市より渡邊市長、青木助役、芝辻助役出席した。渡邊市長開會の趣旨を述べ、今回の震災は、實に凄慘の極にして、六十年來の努力によりて建設された全國隨一の貿易都市が、一瞬時にして烏有に歸したは、眞に痛心の極みなりとす。然るに我横濱市は、帝都の關門として、東京と密接の關係を有するのみならず、其興廢は直に國家貿易の

消長に關する所、至大なるに鑑みる時は、本市の復興計畫は、獨り本市自身の問題たるに止まらず、實に國家の重大案件なるを以て、此危機に際して、決然起つて大勇猛心を發揮し、先づ焦眉の急たる救濟事業を完結し、進んで市の再興を圖らざるべからず。本日各位の御足勞を煩はしたは、要するに各方面の人士を一團とする勢力を組織し、勇住邁進、以て復興事業の端緒を捕捉せんとする切々の至情に外ならぬ。尙活動方法に就ては、私案なきに非ざるも、先づ差當り吾人の意のある所を諒して、御賛成の上、目的達成の爲めに御盡力あらん事を切望する、云々と。次で守屋此助氏之に賛し、市長の私案としては、一の會を組織して、横濱市復興會と命名し、本日出席の諸氏をば、全部委員に擧げ、尙常務處理の爲め、委員中より會長の指名に依りて、常務委員若干を擧げ、且つ本縣知事を其の顧問に推薦したしとの事であると説明した。此時平沼市會議長の提議により、市長を假座長として、議事を進む事とし、上郎清助氏の提議により、會長の指名は、之を座長に一任した。此に於て座長は、會長として原富太郎氏を指名し、満場の賛意を得た。會則案、常務委員の銓衡は、すべて會長に一任することに決し、横濱市復興會は、横濱市の復興に關し、必要なる施設を調査研究し、之が實行を期するを以て目的とすの第一條を規頭に、十一箇條、其の他處務規程十箇條を處定し、官民人士を網羅して、會長の外、顧問、總務

部計畫部市財政部市事務部港灣部都市計畫部運輸交通々信部生業部貿易部工業部金融部等に頼ち各部に委員長及副委員長を配屬し陣容堂々各部の白熱的運動と相俟つて實行に着手し始て本市更生の運に向つたのである。

己上は直後に於ける本市復興の對策に關する外廓的記述を一括したに過ぎない。官民の熱烈なる心情は至大の力となつて今日あることを思へば將來本市民に對する絶大の教化となり築き上ぐべき一々の施設には彼は無限の至情が漂うて居る事であらうと思ふ。

第二章 港擴張の爲めに開催されたる市民大會

市民大會

日時 十六日午後一時

場所 横濱市復興會

主催 横濱市會議長 平沼亮三
横濱市復興會長 原富太郎

市の興廢は今度の議會でできる。市民一致して横濱を救はねばならぬ。

第三期擴張工事の完成

京濱運河の速成

防波堤の築造

この三は横濱復興の第一義である。

右の如き發會の趣旨を市民に示し、京濱運河及防波堤速成に關する市民大會は、十六日午後一時より、本町通り横濱市復興會内に於て開かれた。横濱市將來の興廢に關する重大問題なるを以て、定刻前より來會者三千餘名と算せられ、熱狂緊張して開會を促した。此時市會議長平沼亮三氏登壇して、開會の辭を述べて曰く、

今次震災の程度は東京よりも横濱の方遙に甚大である。而かも吾人市民は、此儘に挫折すべきにあらず。舊に倍して奮勵努力し、禍を轉じて福となすの覺悟を以て、より以上の復興を期せざるべからず。是を以て、復興院評議會が、滿場一致を以て、京濱運河及防波堤の速成を決議したるに、何事ぞ、彼の老人輩を以て組織せる復興審議會は、復興を復舊と解釋して、之を否定し去らんとは。然れども運河と防波堤とは、獨り横濱の問題にあらず。實に國家全般より見て、重大問題である。宜しく輿論の力を以て、之が完成を期せざるべからず。是れ本日市民大會を開催せる所以である。

次に滿場の決議を以て、原富太郎氏を座長に推した。次に守屋此助氏、左記宣言書及決議文を朗讀し、滿場拍手急霰の裡に之を可決した。

宣 言

帝都の復興は横濱港の完成に俟つもの極めて多く、而して横濱港をして國港たるの使命を

完からしむるには、京濱運河の開鑿及鶴見川口より、新山下町に至る防波堤の築造は絶対に必要なり。

抑も京濱運河は第四十六議會に於て、滿場一致を以て、之が速成を建議せられたるものにして、復興院評議會亦運河及防波堤の急務なるを認め、總會に於て之が速成を決議し、政府に於ても評議會の決議を尊重すべき事を言明せられたり。然るに一度提案せられたる京濱運河計畫も、復興審議會の意見により、之を撤回し、防波堤の如き、未だ政府は充分の考慮を拂はざるが如し。後藤總裁は、次の通常議會に京濱運河を提出することを言明せられたるも、周圍の情勢に鑑みれば、未だ以て意を安んずる能はず。防波堤に至りては、前途更に憂慮に堪へざるものあり。是れ實に我横濱市の興廢の岐るる所、市民死活の重大問題なり。依りて此際市民は決起して、政府に之が提案を要望すると共に、貴衆兩議院に陳情し、他まで素志を貫徹せずんば止まざるべし。

右宣言す。

決 議

横濱市民は帝都復興の趣旨を完からしむる爲、京濱運河及防波堤の速成を期す。
右決議す。

大正十二年十二月十六日

横 濱 市 民 大 會

港擴張の爲めに開催されたる市民大會

次に右宣言文竝に決議文を首相内相藏相復興院總裁及貴衆兩院議長に通達すべく、
座長指名により、左記十七氏を委員に擧げた。

上郎	清助	渡邊利二郎	上保慶三郎	小野	哲郎
山崎	小三	竹内定吉	北見清吉	武岳	亮惠
大久保	宇之助	高木太郎	渡邊文七	綿野	吉二
澁澤	義一	上甲信弘	若尾幾太郎	佐藤政五郎	
平沼	亮三				

夫より演説會に移り、左記諸氏登壇して、滿腔の熱辯を揮ひ、數千の來會者は、熱心之を傾聽し、感極まる毎に、滿場破れん許りの拍手裡に、左記の諸氏出演し、目的の貫徹に邁進したのである。

市會議員 山崎 小三氏

震災災の善後策として、今日まで復興會其他の組織はありしも、市民大會を開きたる事は曾てなかつた。然るに夙に後藤復興院總裁より、京濱運河を懲慝されしに拘らず、其後彼の審議會の意見を容れて、之を撤回さるるに至つたのは、是れ市民が熱心足らざるがためではないか。東京へ行くと横濱は何故奮起せぬかと、屢質問を受ける程である。坐して好運を望むは不可能である。

吾人は常に聲を大にして、絶えず進路を開かねばならぬ。彼の早くも横濱を見棄てて逃げ出す如き薄情者は、素より相談にはならぬ。飽くまで踏止まつて努力さるる所の熱誠なる諸君と共に、一致して目的の貫徹に進みたいのである。

市會議員 上保慶三郎氏

震災は京濱同一にして、而も損害は横濱が大である。然るに當局の横濱に對する復興豫算額は、平素の都市計畫位に過ぎざるは意外である。世界に於て日本と支那と同國ぐらゐに思ひ居る民族も、尙横濱の名を知らざる者なき程知名の貿易港に對し、政府當局は稍もすれば輕視侮蔑して、國家的に必要な防波堤や、運河の豫算までも削ることは何事ぞ。之が完成は吾人が敢て此機會を利用して主張するものにあらずして、實に多年の懸案を解決せんとするのである。然るに彼の復興審査會で削られたのは甚だ遺憾である。後藤内相は京濱運河を通常議會に提出すべく、言明はされたが、言明は常に必ずしも實現すべきものであるか、未だ安心は出來ない。本問題は火保問題の如き一局部の問題にあらずして、市民死活の大問題である。諸君と共に大聲疾呼して、目的を貫徹せねばならぬ。

市會議員 武岳 亮 惠氏

余は先般來火災保險問題に奔走中であつたが、本日の問題は夫れ以上大問題で、實に横濱死活の重大事である。之を身體に譬ふれば、港灣は口である。此の口が震災で負傷し、食物が通らず

港擴張の爲めに開催されたる市民大會

とせば、如何にして身體の營養を望み得べきか。獨り横濱の營養のみならず、東京の營養も亦然りである。吾人に熱烈に之を議會に訴へる。

縣會議員 渡邊 利二郎氏

横濱の六十年前は如何。本會場の邊は一面の麥畑であつたと聞いて居る。夫れが開港以來屢々乎として進み、諸君の努力によりて、九月一日までは盛況であつたが、然かも震災前と雖も、大正二年頃より何となく悲觀の聲が起つて來たのは、思ふに一種の病氣で、神經衰弱の如きものであらう。此悲觀の根原を癒すためには、港灣の改修が第一であるから、第三期擴張となり、更に第四期の要望を進んで來たのである。何卒世界の横濱として必要なる施設を完成すべく、諸君畢生の努力を希望して止まない。

市會議員 北見 清吉氏

震災により横濱市は根底より破壊されたが、諸君日夜の努力により、今や一道の光明を認め來れるは慶すべき事である。吾等の祖先が六十年の歴史を重ねて築き上げた横濱も、京濱交通の不完全よりして、羽織に下駄を履いて車を挽く如き運輸状態にあるのは遺憾である。今日帝都の復興材料のみでも、拾億圓を算すると云ふが、之が運送費の關係のみでも、運河さへあれば、總額の一割二割は減ぜられる。假りに一割と見ても、壹億圓は浮ぶではないか。然るに僅かに壹千參百萬圓に足らざる此運河の經費を削るとは何事だ。此に至つて復興審議會は全く經濟觀念

なきものと云はねばならぬ。運河と防波堤とさへ速成せば、東京築港の如き愚論は忽ち消滅するのである。大いに諸君の奮起努力を望みます。

横濱市助役 青木 周三氏

余は善く言へば役人悪く言へば市民の隸僕である。此種のものが、斯かる集會に登壇すると云ふ例は曾つて無いかも知れんが、而も遂に起つ止むなきに至つたのは、寧ろ横濱市として不幸なる情勢と言はねばならぬ。

楮て市としては、先年横濱港調査會なるものを設け、震災前にありても、之れ丈は必要缺くべからずと云ふ程度の設備、運河第三期第四期港灣改修等の調査研究を遂げつつあつた。然るに地震で一切が破壊されたので、當初後藤子は曰く、破壊は一部にして、國家全體にあらずと。然るに會、詔勅の發布あり、御趣意は復舊に止まらずして、復興にある事明かになり、今日は政府當局も市民も共に右様に解釋するに至つたのである。然るに今次復興計畫を見ると、東京にありては道幅を二十間三十間に擴げ、小學校の傍には附屬の小公園を設け、公園中には消防機關を設くるなど、避難衛生消防等の施設に至らざるなきに、我が横濱に對しては、此等を一切削り去つたのである。之にも拘はらず、我が横濱が忍耐する所以は、實に市の生命たる港灣設備を完成したいからである。然るに今や何事ぞ、其の生命たる運河と防波堤とを復興豫算中より削り去られんとは。市民は何を以て之を忍ぶ事が出来るか。政府側は或は横濱を以て薩を得て蜀を望むものとなす

港擴張の爲めに開催される市民大會

かも知れん。然しながら横濱は何等多きを望むものにあらず。唯其の生命たる貿易上必要欲くべからざる最少限度の設備を切望するに過ぎないのである。

近時歐米諸國にありては、國家に新計畫の起る場合には、概ね議會を解散して、輿論に問うの風がある。例へば先般英國内閣は多數黨を擁するに拘はらず、自ら進んで解散して、國論に訴へ、米國は一般投票に問ふのである。此大勢に鑑みて、本問題に關しては吾々市民も宜しく聲を大にして輿論に訴へ、目的の貫徹に努力されん事を望むのである。

代議士 大濱 忠三 郎氏

後藤内相は、十四日の衆議院で、京濱運河を通常議會に提案する事を言明したから、稍安心なもの、吾人は更に益、努力せねばならぬ。防波堤の方は、國費多端の際故、第三期擴張費の市負擔額を免除するから、夫れを防波堤へ廻して、市營でやつては何うかとの意嚮であつた。然し吾々としては萬一國營の力なくして、實現不可能の場合は、止むなく市營の方法をも考ふべきも、今日の處にては先づ國營の一方に努力を怠らぬ。先着として御報告旁々諸君の奮勵を熱望する。

代議士 若尾 幾造氏

九月一日以來、諸君にお目に懸るのは今日が初めてであるが、全く六十年來の夢であります。九月五日に根岸の別荘から出て、地藏坂を下るとき、見渡せば滿目慘憺たる光景に、涙止めあへず、聲淚共に下る。然るに之は一場の夢と諦めて、吾々は是れから始めて生れた積りで、奮勵せねばならぬ。

そこで急務は港の復興と運河とだが、此の運河に就いては、私共が十年前に申上げた事もあつたが、當時は誰も耳を藉す者もなく、政府も市も金なき故、不可能、民間では尙更不可能であると、の事であつた。然るに其後物價騰貴し、其の調節の一策として、渡邊市長とも相談し、其結果議會に提案した次第である。今日貨物一噸六圓の運賃で、何が復興が出来るか。運河があれば、其の十二分の一の五拾錢で済む。平素の運賃に比しても、五分の一が六分の一で済む。然し東京築港などが出来れば、運河の實現も困難であるから、今日聲を大にして、運動せねばならぬ。尤も運河は次の通常議會に提案すると、後藤總裁も言明して居るから、必ず提出はされよう。唯憾むことは、防波堤の削除である。然し京濱運河だけでも落成すれば、横濱は漸次繁榮するから、一度横濱を去つた人達も、一日も早く復歸して、開業されんことを諸君より勸誘されたい。

復興會港灣部委員長 小野 哲郎氏

不肖當市復興會港灣部委員長として、十月三日より十二月十五日まで、部會を開く事十五回に及んだが、調査研究の目的は、第一に破壊を如何にして建設すべきや。第二は即ち京濱運河と防波堤との速成であつた。然し畢意する所、徒に焦慮を重ねるよりは、寧ろ輿論の力に俟つの最も有効なるを信ずるものである。惜て京濱運河完成の曉には、物價が三割も減する見込である。それは年々の例なる幾十隻の船沈没の危険を除き、運送の距離と時間とを半減し、往復度數を倍加し得るので、紓貨のみにも四割を減し得るのであるから、輿論の力を以て、飽くまで實現さ

せたい。横濱は開港以來、政府の保護の下に獨占的に發達して來たが、夫れが神戸・大阪方面に優位を奪はるるに至つたのは、實に内地雜居の時からで、今から考ふれば、實にウツカリ忘れて居つたのである。然し今や吾人は破壊の後の建設に、大に力めねばならぬ時期となつた。而して之は一に輿論の力に依らねばならぬ。彼のウォルターリップマンの輿論と云ふ書に「輿論は自尊の社會に於て最も強し」とある。而して此の自尊の社會なるものは、主として其の土地に永住し、親しみを持つ人々によりて組織されねばならぬ。

代議士 森

恪氏

運河と防波堤との必要を最も詳知するは諸君である。何ぞ吾輩の喋々を要せんやである。余は唯諸君の意思を體得して、議會に於て微力を盡さんとするものである。余は本問題に就いて、屢、政府當局と接觸の機會があつた其度毎に最も痛感するのは、當局の冷淡なる態度である。復興豫算五億五千萬圓中、東京は四億八千萬圓、横濱は僅に五千貳百萬圓。而して東京の爲めには公園中央市場上下水道、高速度鐵道等、凡ての計畫を明確に發表して居るに拘らず、横濱に對しては全然無方針ではないか。京濱運河に關する吾人の希望は、幅百間、深さ十八尺なるに、復興豫算の計畫は、幅五十間、深さ十二尺である。而かも帝都復興と不可分のものとして評議會が可決したるに拘らず、審議會の一撃によりて、撤回されたのは何事であるか。政府は横濱港第三期擴張を以て、破格の恩惠の如く言ふも、是は新政府の計畫にあらずして、既定の事實である。而かも參

百萬圓を市に負擔さしてゐるではないか。更に市民の最も熱望する防波堤に對しては、一顧も放たずとせば、政府が口に言ふ希望を尊重するの實、何處にあるか。政治は理想にあらずして、現實である。吾人は山本首相が七十幾歳の老軀を提げ、困難に直面し、誠心誠意盡瘁さるる一事には、敬意を禁ぜざるものであるが、決定と實行力との薄弱なる政府の態度に對しては、多くの期待を有せざるものである。茲に盛んに政府を攻撃し、横濱市民が明治初年の桃源の夢より醒めず、他都市に比して進運遅き所以は、一に之を率ゐる政治家の、言論に勇にして實行に怯なりし罪であると思ふ。凡ての問題は諸君の政治的決心の明白となる後に於て始めて、解決せらるべきものであるから、余も諸君と共に、大いに努力する覺悟である。

代議士 湯淺 凡平氏

余も亦森代議士と同感である。此内閣を鞭撻し、政府を督勵して、復興の完成を期するは、是れ本日市民大會の目的である。今次内相は議會に於て三つの回答を與へた。第一は、運河は憲法上臨時議會に提出の必要な故、通常議會に提案する事。第二は、第三期擴張は既定の事實である事。第三は、防波堤は財政の都合上未だ考慮し居らず、是れである。此防波堤は、曩に復興評議會に於て満場可決したるものを、審議會に於て否決したものであるが、惟ふに政府如何に薄弱なりと雖も、豈半死の老人輩の集りなる審議會のために、俄に此の重大事件を撤回するものであらうか。否、審議會は恐るるに足らずと雖も、其背後に潜める或る勢力を恐れたのである。故に先

港擴張の爲めに開催されたる市民大會

づ此背後の勢力を賛成せしめずんば問題は解決せぬのであるから市民の運動は實に今後にある。今や市民は第一線を突破して更に第二線に突撃すべき場合であるが、而かも其の第二線たるや、彼の半死の老人と異なり、精銳を盡し、塹壕を深うしたる堅壘なれば、市民は決死の奮勵を要する。此時に當り、先刻森代議士が先頭に立つて奮戦せらるると云ふ一語を耳にしたのは、實に百萬の味方を得たよりも心強い次第と言はねばならぬ。若し京濱兩都の災害を以て國家一部の災害に過ぎずとして、放任する國民あらば、其は非國民である。今次の損害は無量百億と算せられるが、先年國勢調査の報告によれば、日本全國の富は六百億と云へば、當に其六分の一である。之をしても國家的大損害と言はすんば、何をか大損失と云はうか。若し此機會を悪用し、地方の犠牲を拂うても、政府を倒さんとする輩あらば、其は涙なきものと言はねばならぬ。兩都の關係に於て、京濱運河は其廊下である。玄關より奥座敷に至る通路として、缺くべからざるものである。要するに吾人は今や第一線を突破したが、第二線第三線を突破するのは、何れの時か。吾々は一陽來復の大正十三年の新議會に於て、大に努力せねばならぬが、其の突撃の目標は何れにあるか。冷靜に形勢の推移を看視して、無効の努力をせぬように注意すると共に、黨派を問はず、行懸りに捉はれず、協力一致して、目的に向つて奮闘せねばならぬ。

代議士 守 屋 此 助 氏

震災後に於て、吾々臣民は皇室より三つの忘るべからざる物を賜つた。其一是皇室自ら質素

儉約の範を示された事。其二是壹千萬圓の御救恤金。其三是即詔勅である。而して詔勅には、「獨り舊態を回復するに止まらず、進んで將來の發展を圖り、云々」と示され居る。夫れ大綱ありて小節擧るで、復興は實に此の大綱に則つて、凡百の計畫を進まねばならぬ。然るに我國今後の發展上、一番遅れて居るものは、港灣政治である。國は一等國かも知れんが、港灣は三四等國である。世界は愚か彼の植民地なる臺灣の基隆や、朝鮮の釜山でも、横濱よりは皆優つて居る。然るに國港として十億の貿易を行う横濱港は、誠に粗末千萬であるのは意外である。米國の桑港には棧橋が五十八もあり、紐育には三百以上もあるに、横濱には幾つあるか。近頃鐵道の役人が世界を視察して、日本の鐵道設備は世界の一等國に劣らぬと言つて威張つて居るが、港灣は正に斯くの如くである。然るに山奥の鐵道が可決されたとして、脱黨するなど騒ぐ政治家があるが、港灣の改修が可決されても、脱黨したと言ふ人を聞かないのは、不思議千萬ではないか。我横濱の復興は、先づ港灣よりせねばならぬが、今次復興豫算五億六千萬圓中、東京に對して四億八千九百萬圓で、横濱は憐むべし、タツタ五千貳百萬圓である。横濱は東京よりも死傷損害の率が多いのに、復興費は僅に東京の一割に過ぎずとは何事であるか。一體政治家は横濱を知らず、港灣を知らぬのである。吾々が會、當局に之を説くと、ソナナラ何故早く言うて來んかと言うが、吾々から言へば、何故早く政府が調査せんかと答へるのである。そこで諸君へ一つ御相談したいのは、先づ聲を大にして輿論を喚起する事である。昔の政治は當局の方から仁政徳政御慈悲の政治と言つ

たが、今日は人民の方から権利主張要求となつて現はるるのである。憲法政治は求むる者に與ふる政治なりとある。昔は泣く子と地頭には勝たれんと言うたが、今日は國民の輿望には勝たれん事になつた。此意味に於て市民大會は立派なる憲法政治の方法である。之が若し昔なら吾々は諸君と共に八丈島へでも流されたであらう。憲法政治の今日は八丈島へ行かずに済むのである。

政府は重もすれば金が無い金が無い、と云ふ。成程平時の仕事は金が出来てからソロソロ始めるのだが、非常の時にあつては金の出来るのを待つては居られぬ。彼の西伯利戦争には金を八億も費つたが、之は金を準備してから懸つたのか。又日露戦争は金があつたから戦争したのか。當時政府の準備金は六千八百萬圓しかなかつたが。夫れで十八億の戦費を使つたではないか。然らばこの非常の災害より復興するの際防波堤に些少の金を支出する位は當然な事で、沉んや防波堤は戦争とは其の結果に於て異なり、全然生産的なるに於ておやである。要するに憲法政治は求むる者に與ふる政治であるから、一に輿論の力に俟つのである。

市長の挨拶

以上諸氏の熱辯は何れも拍手急霰の裡に終り最後に市長渡邊勝三郎氏の挨拶があつた。

本日は市民の意見を代表さるる方々が集つて復興の目的を貫徹するの決議をされた事は、港灣調査關係の人々や、又災害以來復興に努力された方々も、大いに満足とせらるる事と思ふ。私

共も亦深く感謝の意を表する次第であります。我横濱復興のためには、縣下代議士市會議員復興會員新聞記者等、各方面の諸君が常に熱心に努力せられ、輿論の喚起に力められた事は、是亦感謝に堪えん所であると共に、今後尙一層の御援助を願うものであります。今や政黨を問はず、各代議士や有力家諸君が、一致して問題に盡力さるるを見れば、輿論政治の今日としては、必ず目的の實現する事と信じます。が、要するに今後熱心の續く程度によりて決するのであるから、前途幾多の複雑なる事情の横たはる今後に於て、諸君は宜しく吾々市當局を鞭撻して、目的の完成を助けられん事を望む次第であります。一言各位に私共よりも御禮申述べます。

右にて、平沼亮三氏の閉會の辭を以て散會したのは、午後四時であつた。市民大會としては、横濱開關以來、未曾有の大盛況で、會衆は悉く市内實業家並に有識階級であつたから、市將來の運命を決すべき重大問題に痛く緊張して、復興審議會の無謀を憾み、政府の軟弱を憤り、歸路三々伍々東都の天を望みては吐く氣焔虹の如くであつた。

第三章 港灣復興問題の諸講演

一 横濱港擴張工事に關する私見

内務省技師 安藝 杏一氏談

横濱港第三期擴張工事が、愈々打切りとなつては、横濱の利害は勿論帝都復興上にも由々しい事であるから、早速その邊の消息を確かめねばならぬ。横濱には第四期擴張が今頻りに云なされてゐるが、計畫の決定は至極賛成なるも、現に實施し、痛切に横濱の死命を制する第三期擴張工事に對し、眞剣に考へぬのであらうか。吾々は今日の實勢に鑑み、第三期擴張の完成十九年度では、遲緩に過ぎた計畫であるから、四箇年を短縮し、十五年には完成させる必要を感じ、打切どころか横濱が中央政府と相響應して、此實現に進むことが大局に臨む最善の途であると思ふ。復興院に第三期擴張が移るなどは、事情全く諒解に苦しむが、況して復興計畫と抵觸するなどは、毛頭考へられぬ所である。重ねて本工事中止は横濱當面の大損失である。

(十一月十五日横濱貿易新報所載)

二 横濱港灣擴張工事私見

大藏次官 西野 元氏談

大藏次官西野元氏は十四日午前九時半頃藤井參事官、川田豫算課長、太田書記官を隨へ、横濱港視察に來たが、港灣設備の破損及税關構内の慘害に、今更の如く驚嘆して居た。尙市内各所を巡視し、貿易港としての、横濱の施設に對する參考とする所多いらしく、横濱港擴張工事は財政緊縮上打切るとの説あるに對し、次官は極力否定し、次の如く語つた。

政府が横濱港擴張工事を打切る如く世間に傳へられたことは甚だ遺憾である。決して政府は擴張工事を打切る意志なく、唯震災前後に於て其計畫も變更すべきものと思ふから、この計畫の下に事業を繼續せんとしたまでである。

尤も震災後の事情によつて、従來の計畫よりも多額の費用を要することもあるべく、又更に大きくやるべき必要があるかも知れないが、兎角震災後の事情に應ずる計畫の下に工事を進めたいと云ふのであるが、これも議會が豫算案に對し、非常な反對ある等の場合は、勢ひ前の計畫を進行せしめるまでである。

(十一月十五日都新聞)

三 帝都關門としての横濱

經濟學博士 寺島 成信氏

横濱市主催復興問題講演會は十一月二十四日午後二時本町復興會々場に開催せられ、平沼市會議長開會の挨拶を述べた後、寺嶋博士立つて左の如く述べた。

港灣復興問題の諸講演

横濱が一年間に吞吐する貨物六百萬噸の内、三百六十萬噸即ち六割は、東京へ行く。横濱の經濟上の使命は大である。震災後芝浦沖へ六千噸位の船が入り、荷役陸揚をした。必要の前には此の現象が起るので、今回復興に伴ひ、東京築港の聲起り、之が東京横濱の従前の關係を解決する機會となつた。兩港の關係に就ては、横濱港を外港とし、東京を内港として併立する説を、穩當且つ實行し易い説として、豫て提唱したが、今日反響あるに至つたのは、本懐である。

帝都復興のためにも、横濱港の復舊が急務である計りでなく、その機能を完全に發展さする上から、第三期第四期の擴張計畫を進める必要がある。更に京濱間聯絡は、必然的に重要なものとなる。鐵道電車以外國道の改修を俟つて、貨物自動車の利用を盛にする必要もある。(港灣行政の統一から自由港に論及したる後)

若し自由港區が必要だとすれば、地勢上航路の上より、神戸が最適である。然し將來鶴見沖に設置すれば、背面工業地との關係から新なる發展の見込がある。(結論として兩港提携主義により、横濱は巨船を吸収して、東京と共存共榮の理想に向つて突進せよと述べた。)

四 横濱の復興

法學博士 渡邊鐵造氏

絶望に頻るかと思はれた横濱の復興が市民の熱心努力と幾多の英雄的感激とを催した。復興

には施設計畫も必要だが自治と協同が第一である(と冒頭し)。災害は地方的であるから、恢復も地方的に賄ふが當然であると主張するものもあるも、災害は國難である。正に戰禍以上だ。若し國難に非ずと云ふなら、國の組織の根本を更改せよ。

經濟上に有機的に關聯する復興問題を政治的に利用するは斷じて不可である。横濱が港灣に全力を傾くるのは、寔に同感の次第である。

東京再建に當つて、工業の如き、文化事業の如き、集中主義に反對である。余は持論として、本所深川の如き低濕地に、工業の基礎的建設をなすは得策でないから、放棄論を提唱する。京濱復興上にも關する問題として、消費及び貿易中心の工業は、東京を中心に、今後發達するから、その地帯を神奈川より鶴見川崎の海岸及び山手一帯に選み、ここに集中するを最適と信ずる。京濱運河が兩都發展の役目を努むるは云ふ迄もない。(と述べ陸上設備の改善から復興都市計畫に移り、街路に就いて、道幅を無暗に擴げる事は不賛成、道路公園を防火や安全地帯とする説にも反對である。主として建築と交通から割出して決定さるべきで、最廣幅員を二十四間、建築は特別の經營を除き、三階以下が適當であらう。道路公園の修繕維持には廣い程金がかかる。舗装の方は収入が伴ふから、兩側受益者の負擔とすればよい。)

都市の財源は、(一)特別負擔、(二)土地増價稅、(三)超過收容の三つがある。當局者は此財源計畫を誤らぬ充分の用意が必要である。それと土地區劃整理は、當局の責任として、此機會に土地利用増進防火、

衛生保安の計を樹つべきである。區劃整理と相俟つて全かるべきは、建築係の指定による街區の築造である。平たく言へば、一定整然たる街に屋屏を揃へる事である。復興院では土地買収に對し、地主の無償提供の制限を一割とした。横濱市は除かれてゐる。一見地主の損失のやうであるが、結局利益する者は地主であるから心配はない。(と述べ、最後に財政計畫に論及したが、折柄寒雨沛然として鐵板にしぶき、電燈の消えた暗黒の中に、博士の舌鋒は鋭くなる。)都市の土地に課税せぬは不都合だ。特別市街宅地税を起せ。營業税も委譲せよ。非常の際は交通税を市へ渡せ。全國的に臨時所得税を課し、減税運動は中止せよ。(と熱を帯びた意見が復興當面の學理的の財政策の中に、チヨイチヨイ吐き出された。青木市長代理の挨拶で、六時の散會まで聴衆は身動きもしなかつた。)

五 京濱運河及東京築港問題の緒説

海軍中將 山路 一善 氏

京濱間の運賃が距離の割合に、非常に高率なるは、周知の事實にして、之を軽減せんがため、東京築港が屢提案せられた。而して築港完成せば、内國貨物一噸に付平均貳圓、外國貨物一噸に付貳圓乃至五圓を節減し得べく、海路東京に輸入せる内外貨物、大正十一年に於て六百餘萬噸の内四百萬噸が、船にて輸送せられて居るのであるから、築港のために、市民は毎年數百萬圓の冗費を節約し得るのである。此の議論こそ築港論者の金料玉條となす所にして、素人の耳には最も入り易い。然るに此の

計數には誤謬があつて、築港は如期大なる利益を市民に提供するものでない。第一に内國貨物に就て述べんに、今回復興院より配付の運賃表に依れば、内國航路貨物が横濱にて船に積替へ直に東京に移送し、大川筋倉庫に陸揚する迄の運賃一噸に付大正十年には平均參圓拾貳錢五厘である。

而して横濱港調査委員會の發表に依れば、砂糖貳圓七拾五錢、金物參圓七錢、タロウ參圓七拾六錢の見込なるを以て、大體に於て兩者一致して居る。然るに復興院の調査は細目に涉り居らざるを以て、爰に横濱側の調査に基づき研究を進めんに、此の砂糖の貳圓七拾錢を分解するに、沖取東京回漕船賃壹圓七拾錢、東京港内滞船料拾四錢、水揚入庫賃五拾五錢、其他雜費參拾參錢より成るのである。又金物の參圓七錢は、沖取東京回漕船賃貳圓、東京港内滞船料拾四錢、水揚入庫賃六拾錢、其他雜費參拾參錢より成るのである。

扱又築港完成後に於ける荷役を考ふるに、岸壁より直に荷車にて市内に配付するものは極めて少量にして、少くとも其九割五分は船に積込み、本所深川方面の工業地に運搬せらるか、又は箱崎、日本橋等の倉庫に運送せらるるであらう。此回漕費を砂糖に於て四拾錢と見積る時は、之に東京港内滞船料、水揚入庫賃、其他雜費を加算して運賃となるのであつて、是等は築港の利を享け、若干減少し得るならんも、其差額は極少にして、之を省略して差支ないのであるから、結局運賃は壹圓四拾貳錢となり、之を横濱よりの運賃貳圓七拾貳錢に比すれば、壹圓拾錢の利益となる。又金物に就て見るに、東京港より市内倉庫回漕船賃を五拾錢とすれば、壹圓五拾錢の利益となる。即ち砂糖壹圓參拾錢、金物壹圓

五拾錢は東京築港の利を享けるのである。

又。荒天等の際には、更に若干増加すべく、即ち論者の唱導する内國貨物に付平均貳圓若干減少して、壹圓五拾錢附近となるのである。(更に此を減少するには、解船の改良横濱港の小修等に在れども、之を省略す。)

第二外國貨物に就て述べんに、砂糖一噸の京濱運賃は、五圓九拾五錢にして、之を分解すれば、

- 一 本船より陸揚げ迄の港内解賃八拾五錢。
- 二 解船料貳拾壹錢。
- 三 横濱港陸上賃税關構内六拾錢。
- 四 埠頭に於ける作業其他諸掛壹圓參拾錢。
- 五 通關手数料。
- 六 埠頭より東京大川筋倉庫に至る解賃壹圓七拾錢。
- 七 保險料貳拾參錢。
- 八 東京港内滞船料拾四錢。
- 九 水揚入庫費五拾五錢。
- 十 其他雜費參拾參錢。

より成立つものにして、此内九件は東京港に於ても有税品に對し、同様の手續を経て、略ぼ同額の運賃

を要するものと見ねばならぬ。只、六埠頭東京大川筋倉庫に至る船賃壹圓七拾錢は、減じて四拾錢となり、爰に壹圓參拾錢の差を生ずるのである。即ち有税貨物たる砂糖に於て、築港に因り享ける利益は、大體に於て無税貨物と等しく、京濱間の解賃と東京港より倉庫迄の解賃の差に外ならず。之は、常識に於て判ることにして、從來外國品に對する運賃の高率なるは、全く税關並に之に附隨して起るものにして、之は東京港が出来ればとて、何等變る筈はないのである。以上計算にして大誤なしとせば、築港完成せば、内外貨物付一噸壹圓五拾錢附近の利益にして、四百萬噸の輸出入に對して、市民は毎年六百萬圓を節約し得ることとなるのである。

京濱運河は鶴見地先より六郷川を横斷し、大森地先に至る、延長約八千九百間、幅五十間を朔望干潮平均水面以下八尺に浚渫せんとするのであつて、此運河こそ能く東京市民の熱望せる京濱間運賃低下の目的を成達し、他面に於ては築港に起因する幾多の禍根を除去しつつ、更に巨萬の築港費を省略し、又東京横濱兩市をして共存共榮せしむるものにして、真に一舉兩得である。其の理由に對し、少く歩を進めんに、從來京濱間の解船は、曳船に依るものは普通十八隻を連ね、横濱より芝浦迄七時乃至十時間を要し、一箇年一解船の回漕數約三十六回即ち一箇月三回平均である。僅に一箇月三回此の驚くべき事實こそ、解賃の高率なる所以である。

而して其原因の重なるものは、羽田沖の危険を顧慮し、天候不良なれば横濱港内に入り、日和見のため數日滞留するとか、或は六郷川尻に假泊するとか、又は再び横濱に引返すのである。然るに運河完

成せば、著しく距離を短縮するのみならず、水面常に平靜なるを以て、横濱より東京迄は四五時間に於て到着し得べく、市内運河の浚渫擴張により、舢舨は直に市内の倉庫地域に進入し得べし。而して途中滞留の必要を生ぜぬ、是等相俟て、一舢舨の回漕數は從來の倍數即ち一箇月六回以上に及ぶべきは疑を存せない。既に回數に於て倍加すれば、在來の舢舨三千隻は、少くも其三割を減少して能く其用を辨すべく、且又舢舨の節約に因り、回漕業者の利潤を増加し、運賃の低下を招來するのである。

斯の如くして、内國産砂糖の京濱間舢舨の壹圓七拾錢は、減じて四割の六拾八錢となり、金物の舢舨貳圓は、均しく八拾錢となるべしとは、横濱側の計算にして、余の同意する所である。而して之を東京港より市内倉庫迄の舢舨砂糖四拾錢を差引せば、殘金貳拾八錢となり、又金物の運賃五拾錢を差引せば、參拾錢となる。以上の計算にして、大誤なくば、京濱運河完成後に於て、築港の生ずる利益は砂糖一噸に對して參拾錢以下である。市民多數の享くる利益は砂糖十斤に對し、僅に一厘強である。顧みれば、聲の徒に大にして、實の極めて小なるに驚かざるを得ない。

京濱運河は參百七拾五萬圓を要するも、竣工後に於ける維持費は輕微である。然るに築港は之と大いに趣を異にする。凡そ荷役能力は繫船岸に於て一間當り一箇年千噸とすれば、今次の計畫延長五百間に對し、一箇年僅に五十萬噸に過ぎない。然るに水路東京に出入する内外貨物は四百萬噸なるを以て、殘餘の直接舢舨に積卸するか、又は横濱に於て荷役するかである。然るに一度大築港に着手したる以上、市民は到底是等の不便を忍ぶこと能はざるべく、五百間の岸壁は漸次延長して二千間

となり、三千間となるべく、築港は擴張に次ぐに擴張を以てせらるるは自明の理である。尙又築港に伴ひ、後方鐵道の聯絡竝に倉庫の増設等、幾多附帶事件を生ずるを以て、支出は更に激増するのみである。斯くて結局は昨年市に於て計畫せられたる參億五千萬圓計畫に轉ずるのであらう。即ち今回の參千貳百七拾五萬圓は、畢竟參億五千萬圓の頭を支出したものと成るであらう。斯る大支出に對し、産出する利益は僅に貨物一噸平均參拾錢以上なることを知らば、果して世人は賛成するのであらうか。

以上の理由により、余は東京築港は水深十八尺以下の小規模に止め、速に京濱運河を完成して、市民の目的を達せんことを希望して已まないものである。
(十一月二十五日時事新報)

六 山路中將の築港論を訂す

復興院技師 落合林吉氏

山路中將の東京築港論に對して一言を試みたい。先づ第一に東京築港提供利益如何を見るに、横濱港輸出入貨物の約八割は、東京仕向又は仕出貨物にして、其内七割即ち横濱港輸出入總貨物噸量の約五割六分は、舢舨によりて東京に回漕せらるるのである。然るにその回漕費は、桑港より横濱港に至る輸送費と大差なき程の高率を示すために、東京市及附近の住民は、毎年約壹千萬圓に達せんとする巨額の冗費負擔を餘義なくせしめられるのである。而して此の冗費負擔を根絶せしめんがため

には、内國貿易並に外國貿易船を悉く容るるの築港設備を必要とし、更に將來に於ける貨物量増加並に船舶吃水の増加を考慮する時は、彼の東京市の參億五千萬圓を算する大計畫が立案されるのである。以上は大體閣下の御説の通りなるが、閣下が御發表になられた東京築港に依る京濱間回漕費の節約高には、若干見解の相異があらう。即ち内國貨物砂糖に對する一噸當り回漕費沖取東京回漕費船賃壹圓七拾錢、東京港内滯船料拾四錢、水上入庫賃五拾五錢、其他雜費參拾參錢、計貳圓七拾貳錢、貳圓七拾貳錢は、築港完成後壹圓四拾貳錢となり、茲に壹圓參拾錢の利益を得。外國貨物(砂糖)の五圓九拾五錢は減じて四圓六拾五錢となり、結局壹圓參拾錢を利益し得べしとされたるも、右節約金額中には、京濱回漕保險料並に貨物延滞料を加算せられず、今内國貨物一般の平均價格壹圓五拾錢とし、外國貨物を六圓とせば、京濱間貨物の保險料は、百圓に付き拾錢乃至貳拾錢なるを以て、前者一噸當り拾五錢乃至參拾錢後者に於ては六拾錢乃至壹圓貳拾錢を算し、之に延滞料を加算すれば、内國貨物の受くる節約高は、壹圓八拾錢内外となり、外國貨物にありては、貳圓五拾錢内外なるべく、平均噸當り貳圓餘となるべく、之が年四百萬噸乃至五百萬噸を算する東京輸出入貨物に因る利益は、實に八百萬圓乃至壹千萬圓の巨額に達するのである。多額の冗費節約を計らんが爲には、大規模の築港計畫を必要とするも、二十哩を隔てて國港横濱を控へる帝都に、斯の如き大施設をなすは、屋上屋を架するの嫌あり、又一國の港灣政策上より見ても、誠に面白からぬ事である。一方内外貨物の割合を見るに、内外貨物は内外總貨物の約六割を占め、而かも其積載船の吃水は、二十五尺を出づるもの極めて尠きを以て、茲に

内國貨物船を主眼として築港せば、東京港の目的の大半は達せられ、其工費は僅に四千萬圓以内に止めるのである。以上の規模によりて東京築港は成るも、大吃水の船舶は、依然として横濱に入港せしむるの止むなきを以て、此の船舶に對する貨物は、京濱間を船舶によりて回漕せねばならず、且東京港より横濱に逆漕さるべき若干の貨物のあるべきを以て、是等船舶の航行をして安全且圓滑ならしむべき必要を生ずるは、蓋し必然の結果である。京濱間運河は實に此の使命を果すべき機關として、當を得たるものである。次に此京濱間運河の提供利益如何と云ふに、具體的利益としては、回漕費を軽減せしむるは明かなる事なり。只閣下は回漕費の減少する原因は回漕費を構成する四項の内、一に船賃にありと断定され、貳圓七拾錢の回漕費は、其内船賃壹圓七拾錢が六拾八錢となるため、壹圓貳錢を減少すと考へられた。而して其船賃低下の根據を見るに、從來京濱船は十八隻を運ねて曳船し、京濱間回漕時間七時間乃至十時間を要し、平均一箇月三回の回漕數なりしものが、運河によるときは回漕時間は四時間以内となり、回漕數倍加するにありと云ふにある。

然れども、幅員五十間水深八尺の運河に十八隻を運ねて曳船することは、絶対に不可能の事にして、回漕距離短縮するも、速力に於て減ずれば、回漕時間も四時間以内に止まるが如きことは無いであらう。第三の回漕數の増加することは、御説の通りにして、之がため、京濱間に於ける貨物の延滞損料を減じ、航行安全のため保險料を軽減するに至り、此二項が主として回漕低下の原因となるのである。故に京濱運河を通ずる貨物と東京港に直航せる貨物との回漕費の差額は、參拾錢程度の小額に止ま

るので、尠くも壹圓を超過すべしと確信するのである。假に一噸當り壹圓の相違とするも、東京に輸入後加工され、更に輸出する貨物に對しては、一噸貳圓の相違となり、之が商工業の發展に及ぼす影響は實に甚大である。次に築港並に運河等の施設は、多く反射的利益を與ふるを常とし、其の副産物たる埋立地の賣却によりても、其の工費を償却するに困難ならざること、識者の熟知する所である。又將來擴張に關し、水深を増加せしむることは、繫船壁岸其他に支障を生じ、加工中船舶の碇泊を妨害することあるを以て、平面的に擴張する事に對しては、以上の障害なきを以て、平面的擴張をなし得る餘裕を存せしむるを以て得策とすべきである。前述の理由により、自分は東京築港は内國貨物船を主眼とする水深二十五尺程度の規模を最も適當なりと主張するのである。而して之が補助機關として、京濱間に運河を要求するものであつて、之に就いては具體的利益よりも寧ろ沿岸工業の發展を誘致するてふ反射的利益により、多くの期待を有するものである。震災後京濱運輸貨物の量は急激に増加し、芝浦地先には常に大小百餘の船舶蟄集し、極度の輻輳を來しつつある今日、以上兩施設の實現を期することは、實に經濟的要求を満足せしむるのみならず、延いて帝都の復興を促進する所以である。自分は一市民として是等の緊急施設を切望して止まぬ次第である。

(十二月十五日時事新報所載)

七 京濱運河速成は横濱復興途上の急務

航路標識管理所工務課長 工學博士 石川源二氏談

震災後、横濱港の復活を案ずるに、便ち復舊と復興との二意義がある。前者に據つて立たんとするならば消極的で、今更神戸、大阪に對向して、右になり左になり、而して横濱港の完全を豫期するなどと云ふことは、其策を得たものとは云ひ難い。

横濱はどこまでも、後者の意を以て將來の發展を期さねばならぬ。その前提として、工業と商業との二者何れかに方針をとらねばならぬ。其先驅として、横濱復興には工業を先にし、商業をそれに準せしむると云ふことは、取りも直さず當を得た計畫であらう。其前に一言横濱港と東京港との比較を見ると、現今横濱港に入荷する其八割は、かの浮船によつて東京港に這入つてゐる。それが全部とならば尙更のことである。此に至つて充分考へねばならぬ。港其ものの後方連絡即ち鐵道運輸に於ては、到底東京は横濱に及ばざること世だ遠いのであるから、後方連絡は勿論横濱は港としての立派な生命を持し、使命を果すに適してゐることは云ふまでもない。夫に依つて、第一に工業地域を擴張し、次で運輸交通の便を計らねばならぬ。從來横濱の工業地域に至つては、餘りに狹隘にして、頗る不十分である。今新に多大の工業地域を擴むるならば、云ふ所の復興の理想に到着する發足であらう。更に工業地域に對して、港と云ふ價值は、重い荷物を最も完全に安價に、而して速かに運輸の任を

遂げたならば、それが最上である。船と港、港と鐵道、これらの連絡を完全にし、自由自在に荷物を集積することを得るてふことは、萬端に於て能率増進となり、利益の増加を見る譯である。已上の諸點より考へ來れば、明かに京濱運河の速成は有望なるのみならず、復興途上の急務である。而かも獨り横濱によらず、東京によらず、共に希望し、工業機械の製作等に於ても、之がために重大なる利益を蒙むるのである。

要するに運河の開鑿と共に最少時間にて最後の目的地に送荷することを得る。已上港としての理想を述べたに過ぎないが、都市から新たに港を作り出すやうな不自然な東京港の如きは、本來的に港としての使命を果し得ない。港から發達した都市、横濱港とは全く比較にならぬ。後方連絡としても、本來横濱は東京に優れて居ると云ふことが、即ち自然に發達した横濱の所以である。一例を云へば、アメリカのポートランドは、川口にのぞんでゐる港で、川は深いから、町は其川の兩岸を占めてゐる。今日まで築造されてゐるあらゆる港の設置は、町の真中にあると云ふ風で、甚だ美觀を損じてゐるので、更に新しく築造した市營港は、町の端から約十三哩下流の方に當り、全く町のない曠原の岸に築造されたが、この新しい港から町の港への積荷は、水の深さ充分なるにも拘はらず、陸上の鐵道を主としてゐる。勿論川の流れを船底につけるのは、不便であるとのことにも顧慮してゐるが、とにかく港は後方連絡を自然に期待して行くのである。かやうな例から見ても、横濱は港として理想的な地形であることを語つてゐる。

横濱は今後鐵道の完成を期すると共に、京濱運河を速成することは急務である。諸外國の例として數多あるも、ハンブルヒから六十六哩を離れてコクスハーベンの港があると云ふ一好例である。

(大正十二年十一月 日復興會講演)

第四章 横濱港復興に關する宣言書の一

唯一の生絲貿易輸出港として六十有餘年の光輝ある歴史を有する横濱港は前古未曾有の大震災に遭ひ、殆ど其全部を焦土と化し、凄慘の狀言語に絶す。罹災者にあらざるも、誰か之を悲しまざるものぞ。況んや之と密接至大の利害關係を有するものに於ておや。生絲製産地としての吾人は迅速なる横濱港の復興を望むこと眞に切なり。幸に横濱市民殊に生絲貿易關係業者は生絲貿易の速に恢復すると否とは横濱港の死活に關するのみならず、國家經濟上一日も緩上すべからざる重大問題なるを以て、其身の饑渴に迫るを知らず、全力を盡して、之が復活に努めつつあり。誠に吾人の感嘆惜く能はざる所なり。

然るに何事ぞ其態を分ち、其復興を援助するを、人情の自然とするに、此奇禍に際し、生絲貿易港を奪はんとするの運動、關西の各地に熾烈なりと。實に吾人の奇怪とする所なり。

聞く、政府は百方を盡して、横濱港の生絲貿易復興を急ぐと。洵に適當の措置にして、大に吾人の意を強ふする所以なり。

顧みれば本邦に於ける生絲の生産地は、關東の北部及長野、山梨、愛知の各縣にして、交通の關係より見るも、之が輸出港は横濱を以て適當とするのみならず、國家の經濟的關係を京濱と阪神との兩中心とし、一方に偏傾せしめざるを國家經濟策の妙諦とすべきより、之を見るも、横濱港の唯一無二の生絲貿易の遺憾なきを期せられんことを切望して止まざるなり。

右宇都宮、栃木、水戸、前橋、高崎、八王子、川越の七商業會議所より成る關東商業會議所聯合會の決議に依り、謹みて建議候也。

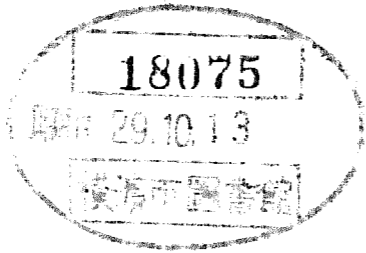
大正十二年九月二十日

關東商業會議所臨時聯合會長

前橋商業會議所會頭 江原 桂 三郎

内務大臣 子爵 後 藤 新 平 殿

横濱市震災誌第四册終



刷印日三十二月七年二和昭 行發日五十二月七年二和昭		
印刷所 大橋活版印刷所 電話掛町二七七二 四八〇	印刷人 大橋徳壽 横濱市根岸竹ノ丸三、二八八番地 電話本高〇七九三番	著作兼 發行人 横濱市役所市史編纂係
品 賣 非		

